

# スプロール化した都市の中の隠された智恵

## —東南アジアにおける都市の「無秩序」を考えるワークショップの開催

企画責任者 三村豊 (総合地球環境学研究所 メガ都市プロジェクト 研究員)

### ● 事前打ち合わせ

**日時**  
2014年11月16日(日)  
13時~17時

**場所**  
総合地球環境学研究所 セミナー室5  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4

### ● 地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ

**日時**  
2015年1月30日(金)  
10時~17時

**場所**  
総合地球環境学研究所 セミナー室3・4  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4

### プログラム

総合司会 三村豊 (総合地球環境学研究所・研究員)

- 10:00-10:05 開催の辞 三村豊 (総合地球環境学研究所・研究員)
- 10:05-11:00 「デサコタ論以降のジャカルタ郊外農村の変容」  
林憲吾 (総合地球環境学研究所・研究員)
- 11:00-12:00 「ジャカルタのデサコタ化：利点とその限定」  
新井健一郎 (共愛学園前橋国際大学・准教授)
- 12:00-13:00 休憩 (昼食)
- 13:00-14:00 「ジャカルタの都市スプロールからの挑戦」  
三村豊 (総合地球環境学研究所・研究員)
- 14:00-15:20 「バンコクおよびマニラ郊外における都市化が誘発する農業生態系の変容」  
原祐二 (和歌山大学・准教授)、山路啓太 (和歌山大学・大学院生)
- 15:00-16:00 「歴史的農業環境閲覧システムに見る明治時代以降の関東平野の都市化・スプロール化」  
岩崎亘典 (農業環境技術研究所・主任研究員)
- 16:00-16:50 「迅速測図を用いた明治初期五日市道周辺の土地利用分析」  
夏目宗幸 (京都大学・大学院生)
- 16:50-17:05 休憩
- 17:05-17:10 **コメント①** 谷川竜一 (京都大学地域研究統合情報センター・助教)
- 17:10-17:15 **コメント②** 国広ジョージ (国士館大学・教授)
- 17:15-17:20 閉会の辞 三村豊 (総合地球環境学研究所・研究員)

### 主催・後援

地域研究コンソーシアム (JCAS)・総合地球環境学研究所



事前打ち合わせの様子



ワークショップのポスター



ワークショップの様子

### ● 目的：アジアにおける都市のスプロール化の評価

今日の都市化の現象に対する議論では、1970年代以降の「農地から都市化」による転用が、気候変動に大きな影響を及ぼしているとされています。しかしながら、こうした主張は、東南アジアでは当てはまらない可能性があります。ジャカルタ都市圏の過去10年の緑地率の変化を見ると、人口・都市域が拡大しているにもかかわらず、都市内の緑地を維持する、きわめて興味深い結果が得られています。つまり、ジャカルタ都市圏は、都市と農村が混在する都市構造で都市が発展し、その発展の仕組みが地球環境への悪影響を軽減していると考えられます。

ワークショップの目的は、農地から住宅や商業・工業への転用に着目して、東南アジアの都市で指摘されるスプロール化を、否定的なものとしてとらえるのではなく、それを無計画のなかの知一あるいは、生活の中で育まれている環境共生など、都市のスプロール化に対して肯定的な評価を考えることです。

### ● 特色：分野横断的な学際研究の実施

ワークショップの特色は、1) スプロールの功罪を考えること、2) 分野横断的な学際研究を実施すること、3) それらの記録を冊子でまとめることです。今日の都市化の議論では、西洋的な大都市論を主流とした「コンパクトシティ」を挙げることができるといえます。しかしながら、アジアの都市化は、気候や地理的要因、文化や宗教など、西洋の都市化とは異なる発展を遂げていると考えられます。

ワークショップでは、東京・マニラ・バンコク・ジャカルタの研究成果を通して、建築学、環境農学、農業環境工学、歴史地理情報学、東南アジア都市史による分野から、アジアの都市化、とりわけ、「スプロール化の功罪」について、さまざまな観点で議論しました。また、ワークショップでは、教員2名、研究員3名、大学院生2名が発表する、分野・世代を超えたワークショップが実施されました。

※企画書では、発表者に相沢伸広氏と大学院生の山下嗣太氏を予定していたが諸事情により参加できませんでした。そのため、コメントーターに国広ジョージ氏、大学院生の山路啓太氏に依頼して対応いたしました。

### ● 議論：スプロール化の功罪を考える

「スプロール化した都市の中の隠された智恵」を理解するため、1) 都市と郊外の隠された現象、2) ジャカルタにおけるカンボンの智恵と課題、3) 関東平野に見る生物多様性、4) スプロール化の「功」として空地利用について議論しました。

集約稲作地域における都市化、いわゆるデサコタ化は、雇用の機会の改善と教育水準の向上が今後の課題として考えられます (新井)。一方で、ジャカルタのカンボンの暮らしが持続的で、環境負荷を軽減させる可能性があり (林・三村)、また、マニラのシロスキハシコウは都市化のなかでうまく適応し (山路)、スプロール化を肯定的に評価できる側面もありました。歴史的側面では、関東平野を対象にして、土地利用の変化には、その時代ごとの駆動要因があり、長期的な変化についても明らかにする必要があります (岩崎・夏目)。アジア特有の文化や慣習、地理的要因は、例えば、ジャカルタでは温熱環境 (林)、マニラでは空地の都市農業 (原) が地域社会の持続的な改善につながるポテンシャルを有している可能性があると思われる。

### ● 成果物：冊子の作成

成果物は、次世代ワークショップの発表記録をもとに、一部加筆・修正を加えて冊子を作成しました。また、冊子には、要旨とディスカッションの内容、コメントーターによる総評が収録されています。



冊子の作成